

【議事】定 44

(1) 第 13 回アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF-13) の開催結果について

資料 44-1 (APRSAF-13) を、インドネシアに出張した JAXA の樋口理事が説明し、総合議長を務めた松尾委員が報告した後、下記のような質疑応答が行われた。

松尾: センティネルアジアの活動はアジア各国から歓迎されている。これに関連して、2~3 年前から、APRSAF の会合は儀礼的なものから実質的な活動に変わり、好ましいとの発言を聞いた。また、これに先立つ会議で、インドネシアの泥流被害に当たり、地球観測データを提供して役立てられたことに対し、感謝されたとのことであった。

青江: 環境監視衛星というものは大変有意義な衛星であるが、アジア各国の反応はどうだったか。

JAXA 樋口: 災害監視の延長と考えている人が多い。例えば「乾燥が続くと山火事が起こりやすくなるので、これを監視してもらうのが良い。」といった発言があった。我々は地球温暖化を監視することを目指しているのであるが、説明はしているが理解が深まっていない¹。

青江: 各国はどう考えているのだろうか。

¹ これは重要な発言である。今まで知らなかったことが一時に溢れると、理解が追いつかないことが良く起こる。大切なことは、諦めずに繰り返し説明することである。また、簡単に理解してもらえないことである。樋口さんの発言は、そのような暖かさを含んだものであった。

JAXA 樋口: 日常生活に関心があって、理解の外にあるようだ。

青江: それは警戒心²から来るのか。

JAXA 樋口: そうではないと思う。理解できていないだけであろう。

青江: 災害のように直接利益が無いことには興味を示さないということか。

井口: 10 年前の日本で、地球環境など考えもしなかったので、そんなものではないか。

青江: 準天頂衛星に対する反応はどうであったか。

JAXA 樋口: 自分はその分科会に出席していなかったのですが、聞いた話になるが、WINDS に関心が集まり、準天頂の議論はまだ活発ではなかったようだ。

森尾: 日本とオーストラリアは丁度天頂に衛星が来るのであるが、赤道上の国々ではどうなるのか。

JAXA 樋口: 真上にあったり、45 度の方向にあたりする。

森尾: 日本上空とは見え方が違うということ。

JAXA 樋口: そうである。

² 思い切り凄い切り口から突っ込んできた。どんな心理状態がこのような発想を産むのか、知りたいところである。